

「愛知の戦国武将 豊臣秀吉展」展示資料目録

| 書名  | 著者（生没年）   | 刊行年                     | 巻数等                   | 内容   |
|---|---|-------------------------|-----------------------|--|
| いろいろものがたり<br>遺老物語 巻ノ七<br>資料 I D : 1103266997  | くさかべ（あさくら）かげひら<br>日下部（朝倉）景衡編（1660<br>-<br>）<br>請求記号：BW7/A201/12/7                     | 享保18年（1733）<br>成立 江戸期写本 | 1冊                    | 近世初・中期の見聞記・随筆・実録を集めた叢書。全20巻のうち、6巻を所蔵。『遺漏物語』『故老物語』ともいう。本館では、全20巻のうちの6巻を所蔵。第7巻が「豊臣秀吉出生（太閤素生記）、太田道灌自記、福島正則遠流」。「豊臣秀吉出生」は、全27カ条にまとめられている。   |
| とよとみでよひ<br>豊臣秀吉譜<br>資料 I D : 1103271235   | はやしらざん<br>林羅山（1583-1657）編<br>請求記号：BW7/A289/ト2/38                                      | 明暦4年（1658）刊             | 3冊                    | 儒学者の林羅山が『鎌倉將軍譜』『京都將軍譜』『織田信長譜』のあとを受けて、江戸幕府の命によって撰した。四書は「本朝將軍譜」と称せられている。近世の諸雑記史料や中国、朝鮮の事項なども検証し、これに聞き書きなども加えて、上、中、下の三巻とし寛永19年（1642）に完成した。内容は、小瀬甫庵の『太閤記』をほぼ踏襲したといわれている。本館所蔵のものは、明暦4年（1658）に山口市郎兵衛が刊行した木版刷の和装本である。 |
| きんこじつろくしんしょうたいこうき<br>今古実録真書太閤記<br>資料 I D : 1103269101   | くりはら のぶみつ<br>栗原信充（1794-1870）著、<br>うたがわ よしいく<br>歌川芳幾（1833-1904）画<br>請求記号：BW/A289/ト2/41 | 明治15年（1882）<br>刊        | 全36巻の<br>内、5巻ま<br>で所蔵 | 豊臣秀吉の活躍を描いた実録物。江戸時代の実録写本小説を出版する「今古実録」という一連のシリーズの第3弾として出版された。その内容の面白さのために多くの人に親しまれた。  |
| たいこうひでよしこうじつでん<br>太閤秀吉公実伝<br>資料 I D : 1103283011  | じょ みなほやさんじん<br>叙に南寿山人とあり<br>請求記号：BW/A289/ト2/39  | 弘化5年（1846）刊             | 1冊                    | 加藤清正、福島正則、石田三成など有力な家臣を紹介したもの。  |
| えいけつさんごくしでん<br>英傑三国誌伝<br>資料 I D : 1103267125  | しゅうそうあん<br>秋草庵（生没年不明）著、<br>うたがわ よし<br>川貞芳（生没年不明）画<br>請求記号：BW7/A289/713                | 江戸後期頃刊                  | 1冊                    | 戦国時代の武将を、絵と逸話で描いた武勇伝。秀吉を始めとして、柴田勝家・佐久間盛政など戦国武将の姿が多色刷で描かれている。成立は嘉永3年（1850）で、刊行年は不明。木下藤吉郎之像は、色あざやかで、禿頭。  |
| はいでんがくめんのぶながこうこうしん め<br>拝殿額面信長公功臣三十六名<br>肖像<br>資料 I D : 1101556414  | いしだゆうねん<br>石田有年（1845-1916）画<br>請求記号：BW/A280/13  | 明治28年（1895）<br>刊        | 1冊                    | 羽柴秀吉、柴田勝家・佐久間盛政など、信長の家臣36名の肖像と逸話が記載されている。信長を祭る京都の建勲神社は、明治2年の創建の際に織田信長に仕えた家臣の内から36名を選び、その肖像を描いて拝殿に掲げたが、その像を元にして銅版画家の石田有年が描いたのを、建勲神社が刊行したものと思われる。  |
| こまきじんまつき<br>小牧陣始末記<br>資料 I D : 1101463306   | うつのみやさぶろう<br>宇都宮三郎（1834-1903）著<br>請求記号：BW/A204/か3                                     | 明治22年（1889）<br>刊        | 1冊                    | 著者の宇都宮三郎は、尾張藩士神谷右衛門の三男。尾張藩の軍学家神谷存心の口述によりまとめた「小牧・長久手の戦い」の事の起こりから終わりまで。  |
| ちょうせんせいばつき<br>朝鮮征伐記 巻之一<br>資料 I D : 1103267036  | ほり きょうあん<br>堀 杏庵（1585-1643）著<br>請求記号：BW7/A204/ホ/1-1-1                                 | 万治2年成立 嘉<br>永7年（1854）刊  | 全9巻の内<br>1巻を所蔵        | 朝鮮の役を中心にした秀吉の伝記で、本館では1巻を所蔵。内容は、朝鮮国の図並びに地理の名目、朝鮮国初の事、衛満朝鮮の王となる事、三韓古今分別有る事。  |
| しんせだいにこうき じゅうのうせいこう<br>新撰太閤記一柔能制剛一<br>はしばひでよし しばたかついえ あ<br>〔羽柴秀吉、柴田勝家二按<br>んま<br>摩ヲスルノ図〕<br>資料 I D : 1103260661 | うたがわ とよのぶ<br>歌川豊宣（1859-1886）画<br>請求記号：BW/A721/ト3/51179                                | 明治16年（1883）<br>刊        | 2枚                    | 太閤記を題材にした錦絵。信長の後継を決める「清洲会議」でのごとく、秀吉が賢いのを快く思わない柴田勝家と佐久間盛政は、秀吉を懲らしめようと、腰を揉むように話かけた。「柔能く剛を制す」の副題がついており、史実としてより一つの物語として「忍耐我慢」の例話として伝えられている。  |

| 書名  | 著者（生没年）   | 刊行年          | 巻数等 | 内容  |
|---|---|--------------|-----|---|
| <small>しんせい たいこうき</small> あけちみつひで<br><b>新撰太閤記</b> 〔明智光秀・<br><small>みぞおかつべえ</small><br>溝尾勝兵衛の図〕<br>資料 I D : 1105053502   | <small>うたがわ とよのぶ</small><br>歌川豊宣(1859-1886)画  | 明治16年(1883)刊 | 2枚  | 太閤記を題材にした錦絵。本能寺の変の後、備中(現在の岡山)から戻った秀吉と京都の山崎で戦い敗走する途中で農兵に竹槍で突かれて傷つき、自刃する明智光秀の姿が描かれている図。   |
| <small>まさきよこうたらがりのず</small><br><b>正清公虎狩之図</b><br>資料 I D : 1103291612  | <small>うたがわよしかず</small><br>歌川芳員(生没年不明)画   | 製作年不明        | 2枚  | 加藤清正の「虎退治の図」。正清とは、加藤清正のこと。徳川幕府にあっては、出版物に対して事前検閲制度が布かれるなど、出版物の統制が行われ、実在の武将をそのまま出版することは難しかった。   |
| <small>さとうまさきよちょうせんせいばつ</small><br><b>佐藤政清朝鮮征伐之図</b><br>資料 I D : 1103268294   | <small>うたがわよしとら</small><br>歌川芳虎(? ~ 1880)画  | 製作年不明        | 2枚  | 加藤清正を佐藤政清として描いている。朝鮮に出兵した文禄の役(1592-1593)で、加藤清正は、二番隊を率いた。秀吉から贈られた軍旗の「南無妙法蓮華経」が翻った鮮やかな錦絵。   |
| <small>ひでよしこうおそうしきごきょうれつ</small><br><b>秀吉公御葬式御行烈記</b><br>資料 I D : 1103268230  | 不明  | 江戸後期頃の写本     | 1冊  | 秀吉は、慶長3年(1598)8月18日に死去したが、「余が身罷つたら洛東阿弥陀ヶ峯に葬れ」と遺言をのこし、密葬が行われた。これは異国の地、朝鮮で戦う部隊の無事撤収のためであった。密葬の後6ヶ月を過ぎた慶長4年(1599)2月18日、奉行たちは秀吉の死を世間に発表したが、葬儀は世情不安定から行うことができなかった。しかし、庶民の太閤秀吉びいきはこれを承知しなかった。秀頼を喪主にして勅使を迎え、北政所、淀殿を始め、五大老、五奉行等二万人以上を参列させた大葬儀をあたかも実施したように記述した巻物や記帳を流布させた。 |
| <small>たいこうひでよしこうおそうしきぎょうれつ</small><br><b>太閤秀吉公御葬式行列帳</b><br>資料 I D : 1105782807  | 不明  | 江戸後期頃の写本     | 1冊  | 秀吉は、慶長3年(1598)8月18日に死去したが、「余が身罷つたら洛東阿弥陀ヶ峯に葬れ」と遺言をのこし、密葬が行われた。これは異国の地、朝鮮で戦う部隊の無事撤収のためであった。密葬の後6ヶ月を過ぎた慶長4年(1599)2月18日、奉行たちは秀吉の死を世間に発表したが、葬儀は世情不安定から行うことができなかった。しかし、庶民の太閤秀吉びいきはこれを承知しなかった。秀頼を喪主にして勅使を迎え、北政所、淀殿を始め、五大老、五奉行等二万人以上を参列させた大葬儀をあたかも実施したように記述した巻物や記帳を流布させた。 |
| <small>ほうこういほうずりやく</small><br><b>豊公遺宝図略</b><br>資料 I D : 1103284396  | <small>しんせい</small> <small>ごけいぶん</small> <small>あかもと</small> <small>とよひこ</small><br>真静編 吳景文・岡本豊彦画   | 天保3年(1832)刊  | 2冊  | 豊臣秀吉の遺宝の図集。兜、鎧、太刀掛、表袴、王冠、茶道具などが載っている。   |
| <small>おわりこくいきぞんとよと</small> <small>おでよしりよあやしん</small><br><b>尾張国遺存豊臣秀吉史料写真集</b><br>資料 I D : 1101556227   | <small>なごや</small> <small>おんこかい</small><br>名古屋温故会編  | 昭和10年(1935)刊 | 1冊  | 豊臣秀吉生誕400年を記念して、名古屋温故会が研究調査したものから、尾張にある豊臣秀吉に関する史跡・書状・所持品等63点の写真集。各々の写真には簡単な解説が書かれている。   |
| <small>かいとう</small> <small>たよ</small> <small>はだい</small> <small>めい</small> <small>りょう</small> <small>じん</small><br><b>開運豊国大明神</b><br>資料 I D : 1108476558  | <small>たいこうざんじょうせんじ</small><br>太閤山常泉寺   | 不明           | 1軸  | 名古屋市中村区の太閤山常泉寺の印がある。「神通之力」と書かれており、御神体=お札として配られていたものが。秀吉像は似ていない。現在の常泉寺ではお札は配られることはないが、古い他種の板木が3種類残っている。  |
| <small>おわりめいし</small> <small>ずえ</small><br><b>尾張名所図会</b> 前編<br>資料 I D : 1103264357  | <small>のぐち</small> <small>みちなお</small><br>野口道直(1785-1865)編、岡<br><small>かたけい</small> <small>おだぎり</small><br>田啓(1781-1860)編、小田切<br><small>しゅんこう</small><br>春江(1810-1888)画 | 嘉永4年(1851)刊  | 7巻  | 尾張の名勝・古跡・寺院等尾張の名所を絵と文で紹介した地誌。秀吉に関する名所として、「秀吉公貧賤の時お称々の方と婚禮の図」、「家康との小牧の戦いの羽黒古戦場・楽田村野陣の図」などを紹介する。成立は天保15年(1844)。   |
| <small>えほん</small> <small>だいいりょう</small> <small>しゅつせ</small> <small>とびまわり</small> <small>すごろく</small><br><b>絵本大領出世飛廻双六、</b><br><small>しずがたけし</small> <small>ちほん</small> <small>やりとびまわり</small> <small>すごろく</small><br><b>賤嶽七本槍飛廻双六</b><br>資料 I D : 1108 | 作者不明  | 製作年不明        | 1枚  | 江戸末期に作成された版木をもとに摺られた20種類のうち、秀吉に関する2枚を展示する。双六は、最初は木製の盤であったが、江戸後期には紙製のものに代わった。本双六は、江戸末期の板木を使用し、昭和に摺刷したもの。   |